

2017年9月1日

2017年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会及び表彰式

報告書

運営小委員会

1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会（委員長：三百田敏夫）の研究成果の普及に資することを目的とし、2016年度の特別小委員会及び研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表のとおりである。

表 建設マネジメント委員会 研究成果発表会（2017年度）発表プログラム

時間	発表テーマ	発表担当研究小委員会
13:00～13:05	開会の挨拶	建設マネジメント委員会: 三百田 敏夫 委員長
■表彰式		
13:05～14:00	表彰式	
14:00～14:15	休憩	
■研究小委員会の部		
14:15～15:00	インフラPFI/PPP 事業の体系的効果計測手法の開発に向けて ～事業の価値を高めるVFM 評価とマネジメントの提案～	インフラPFI/PPP 研究小委員会（第1種） 宮本 和明（東京都市大学）、北詰 恵一（関西大学）、大西 正光（京都大学）
15:00～15:20	環境修復事業を介したマネジメント手法・環境教育・グローバリゼーションに関する調査研究	環境修復事業におけるプログラムマネジメント研究小委員会（第2種） 下池 季樹（国際航業株式会社）
15:20～15:45	工事進行基準に関する先行研究調査に関する一考察	工事進行基準研究小委員会（第2種） 山田 貴久（東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社）
15:45～16:00	休憩	
16:00～16:25	公共デザインへの競争性導入に関する実施ガイドライン（仮称）	公共デザインへの競争性導入に関する実施ガイドライン研究小委員会（第2種） 久保田 善明（富山大学）
16:25～16:50	建設マネジメント力の実態調査結果の分析とこれを踏まえたその後の取り組みについて	建設技術力研究小委員会（第3種） 木下 賢司（株式会社熊谷組）
16:50～17:00	閉会の挨拶	運営小委員会: 今村 博行 小委員長

3. 参加状況

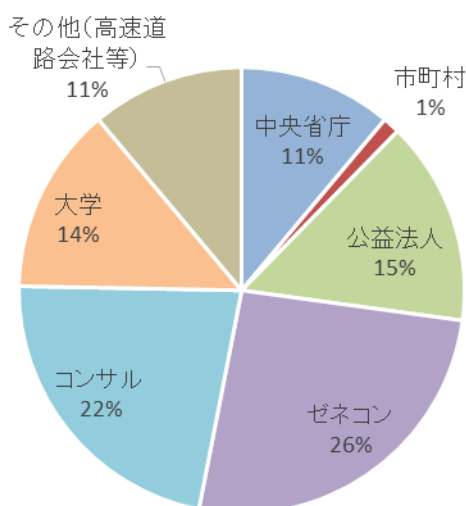
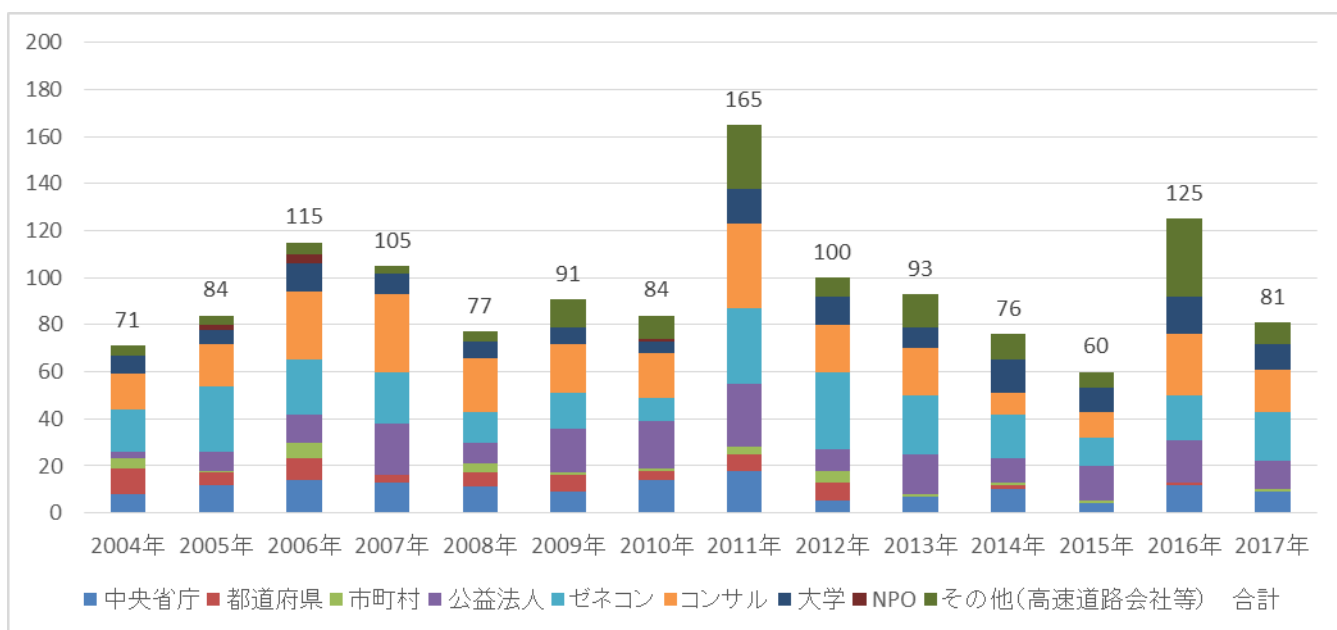
成果発表会には、81名が参加した。参加者の内訳としては、ゼネコンが22名、コンサルタントが18名、公益法人が12名、大学が11名、中央省庁が9名、インフラが2名、その他7名であった。

<当日の様子>



<参加状況>

区分	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
中央省庁	8	12	14	13	11	9	14	18	5	7	10	4	12	9
都道府県	11	5	9	3	6	7	4	7	8	0	2	0	1	0
市町村	4	1	7	0	4	1	1	3	5	1	1	1	0	1
公益法人	3	8	12	22	9	19	20	27	9	17	10	15	18	12
ゼネコン	18	28	23	22	13	15	10	32	33	25	19	12	19	21
コンサル	15	18	29	33	23	21	19	36	20	20	9	11	26	18
大学	8	6	12	9	7	7	5	15	12	9	14	10	16	11
NPO	0	2	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
その他(高速道路会社等)	4	4	5	3	4	12	10	27	8	14	11	7	33	9
合計	71	84	115	105	77	91	84	165	100	93	76	60	125	81



2017年参加者属性 (N = 81)

※参加名簿より作成

4. 発表会に向けた取り組み等について

(1) 発表会に向けた取り組み

・本年度の表彰式では、表彰小委員会において選定された「論文賞」1件、「論文奨励賞」1件、「グッド・プラクティス賞」2件、「優秀講演賞」5件を表彰した。

・本年度の研究成果発表会では、研究小委員会の成果発表として5つの発表を行った。

・過年度と同様に、本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。詳細は「4. 発表会に向けた取り組み等について」および「6. 研究成果発表会アンケート調査結果」にて記す。

(2) 発表会を終えて

「3. 参加状況」に示したとおり、参加者は81名であった。うち43名からアンケート回答を得た。

<回答者の所属構成>

・アンケート回答者の所属は、多かったものから順に、『建設コンサルタント』(12名：28%)、『建設業』(11名：26%)、『公益法人等』(7名：16%)、『省庁』(5名：12%)、『大学』(4名：9%)、『地方自治体』(1名：2%)、『その他』(2名：5%)であった。

<回答者の年齢構成>

・アンケート回答者43名の年齢構成を見ると、『20代』(1名：2%)・『30代』(3名：7%)や『60代』(4名：9%)・『70歳以上』(1名：2%)は比較的少なく、『40代』(17名：40%)と『50代』(16名：37%)が大半を占めた。

<興味ある研究分野>

・興味のある研究分野としては、例年通り、『調達』(入札・契約制度、業者選定、技術力評価、積算・見積もり、等)および『マネジメントシステム』(プロジェクトマネジメント、戦略決定、コミュニケーション、等)が上位2位を占めた。

・当方の提示した研究テーマ以外にも、興味のあるテーマとして以下の自由回答を得た：

- 最新の建設系の法改正内容
- 性能発注・総合評価方式ほか公共デザインの競争性導入等について
- 契約理論、オークション理論
- 契約マネジメント、リスクマネジメント
- 建設契約の効率性に関するテーマ
- プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメント
- 経済学系の研究者と建設系の研究所(建設マネジメント関係研究者・実務者)の討論会を「建設テーマ」の下で行ってほしい

- 倫理観に関するテーマ
- 技術者倫理観の向上に関するテーマがほしいです
- 他産業とのコラボ

<開催を知ったツール>

・開催を知ったツールとしては、『建設マネジメント委員会ホームページ』が19名（44%）と最も多く、『知人からのお誘い』（8名：19%）、『案内状』（6名：14%）、『その他』（10名：23%）と続いた。『その他』の具体的内容としては、社内の連絡（4名）、建マネ委員あるいは委員会からの連絡（3名）、土木学会ホームページ（2名）が挙げられていた。

<発表時間の長さ>

・発表時間の長さについては、『ちょうどよかった』が8割を超えていたものの、以下の意見もあった。今後のため、検討したい。

- 発表内容と時間が不一致
- 発表時間を守るようしっかり指導が必要
- 小委員会毎に時間が異なった？時間を合わせた方が良いのでは

<参考になった発表>

・参考になった発表としては、5件とも多くの票を得たが、「インフラPFI/PPP 事業の体系的効果計測手法の開発に向けて～事業の価値を高めるVFM 評価とマネジメントの提案～」（25件）および「建設マネジメント力の実態調査結果の分析とこれを踏まえたその後の取り組みについて」（21件）が上位2位であった。

<参加した目的の達成度>

・参加した目的の達成を尋ねたところ、『大変参考になった』、『参考になった』が合わせて8割を超えた。

<その他>

・委員会活動に期待することとして、『建設マネジメント力の向上についての活動、顕著な成果が得られることを期待しています。』との声を頂いた。期待に応えるべく、今後も積極的に活動していきたい。

・研究成果発表会に対する改善点や要望として、多くの意見を頂いた。今後の運営において、改善に取り組んでいきたい。

- 節電のためか、少し暑かった。集中するにはもう少し涼しいほうがいいのかと思います。
- 抽象的な内容については具体例があればと思った

- 研究テーマが先進的なものが多く、理解するのが難しい内容が多かった（感想です）
- 表彰された論文や講演はとても優れており、今回の聴講者にもすべてではなくとも 1, 2 例ほど再講演しても良いのではないのでしょうか

5. 表彰受賞者一覧

(1) 論文賞・論文奨励賞

【論文賞】

論文名	執筆者	掲載論文集
リスク評価に基づく鉄道沿線落石対策の意思決定手法	高馬 太一 [西日本旅客鉄道(株)] 杉山 友康 [京都大学大学院] 布川 修 [(公財)鉄道総合技術研究所] 西垣 誠 [岡山大学大学院] 西山 哲 [岡山大学大学院] 大島 義信 [京都大学大学院]	平成 28 年通常号 F 4 Vol. 72 (2016) No.100

【論文奨励賞】

論文名	執筆者	掲載論文集
中国における建設契約ガバナンスの構造：FIDIC との比較分析を通じて	張 文君 [京都大学大学院]	平成 28 年特集号 No.24

(2) グッド・プラクティス賞

取り組みの名称	取り組み実施者	発表行事
ICT活用による現場効率化	株式会社砂子組	平成 28 年 6 月 公共調達シポジウム
モデル空間を基礎とした ICT 活用による建設マネジメントの取り組み	熊本大学 空間情報デザイン研究室	平成 28 年 12 月 研究発表・討論会

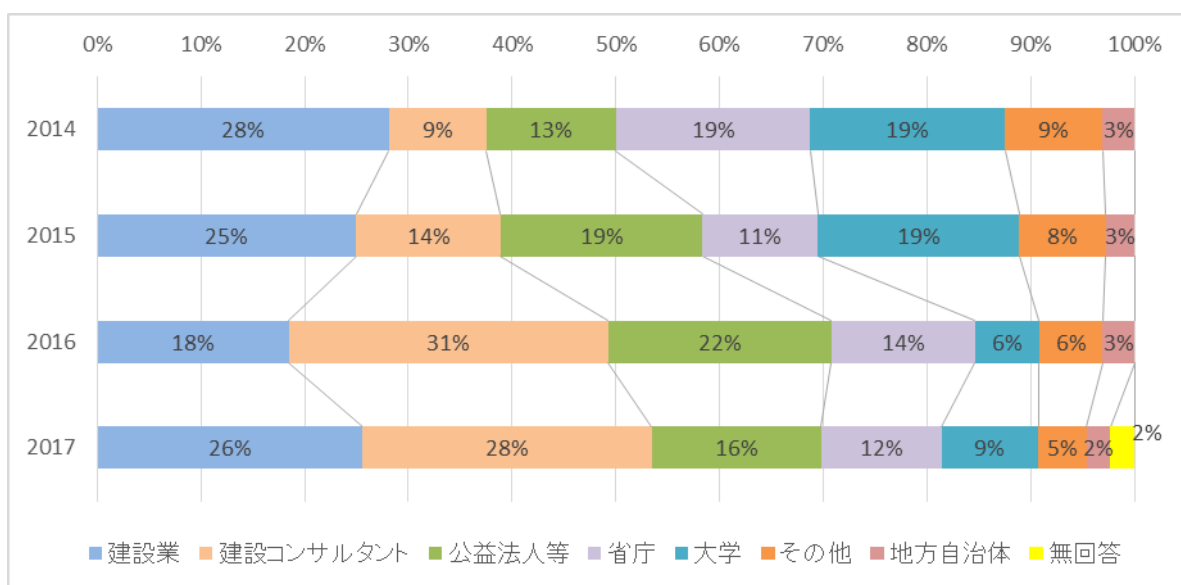
(3) 優秀講演賞

発表名	発表者	発表行事
I C T活用による現場効率化	真坂 紀至 [株式会社砂子組]	平成 28 年 6 月 公共調達シポジウム
静岡市における設計 VE の取り組み ～公共事業の品質向上とコスト縮減～	袴田 弘容 [静岡市]	平成 28 年 6 月 公共調達シポジウム
遅延解析における Concurrent Delay 問題の整理と新たな遅延責任負担分配手法	岡本 尽 [大成建設株式会社]	平成 28 年 12 月 研究発表・討論会
発展途上国における小水力発電事業を対象としたクラウド型 O&M 情報システムの開発	宗広 裕司 [株式会社長大]	平成 28 年 12 月 研究発表・討論会
道路線形改善設計における警察協議へのモデル空間の利用	小林 優一 [八千代エンジニアリング株式会社]	平成 28 年 12 月 研究発表・討論会

6. 研究成果発表会アンケート調査結果

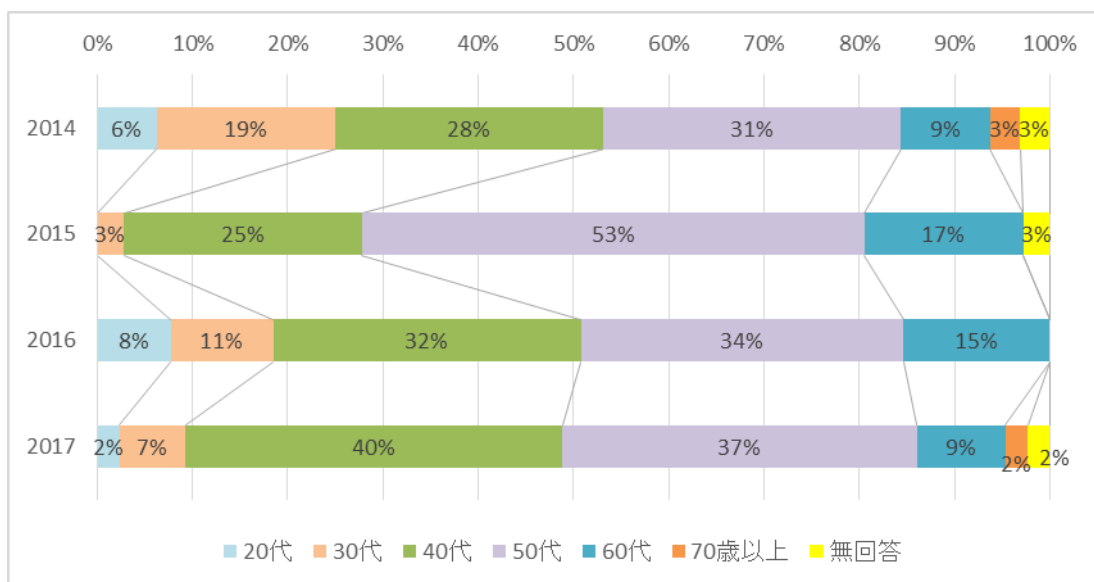
(1) 回答者の所属構成

- ・アンケート回答者の所属は、「建設コンサルタント」が28%と最も多く、次いで「建設業」26%、「公益法人等」16%であった。
- ・前年と比べると、「建設業」の割合が幾分増加した。



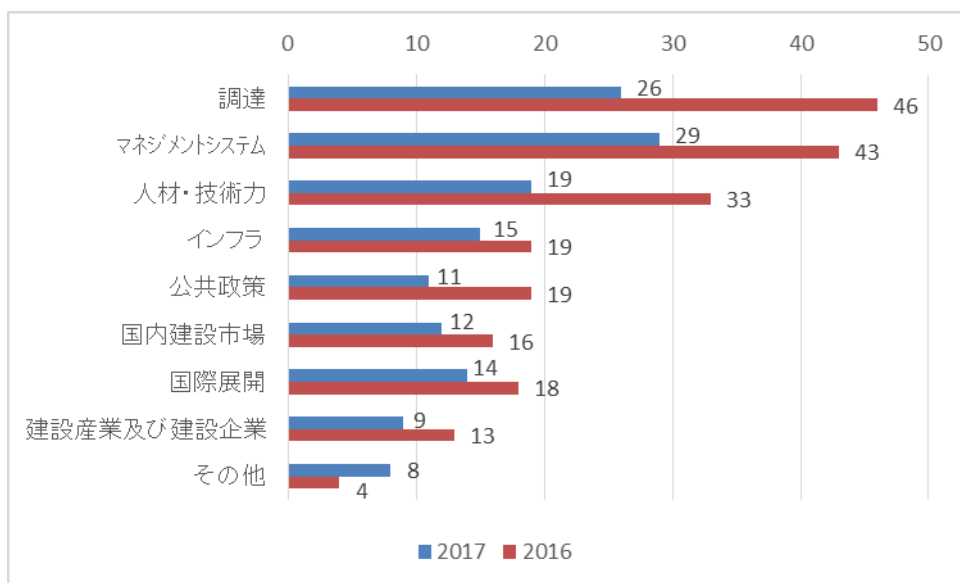
(2) 回答者の年齢構成

- ・アンケート回答者の年齢は、「40代」(40%)と「50代」(37%)が大半を占めた。



(3) 興味ある研究分野

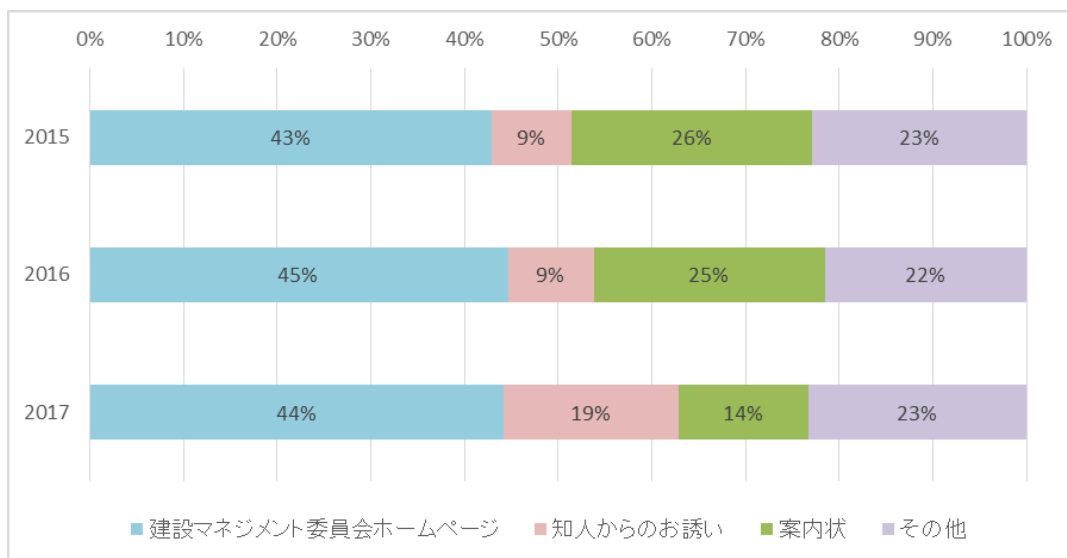
・複数回答可として興味ある研究分野を尋ねたところ、「マネジメントシステム」の29件が最も多く、次いで「調達」の26件であった。



(4) 開催を知ったツール

・発表会を知ったツールとしては、例年通り「建設マネジメント委員会ホームページ」が最も多く、44%を占めた。

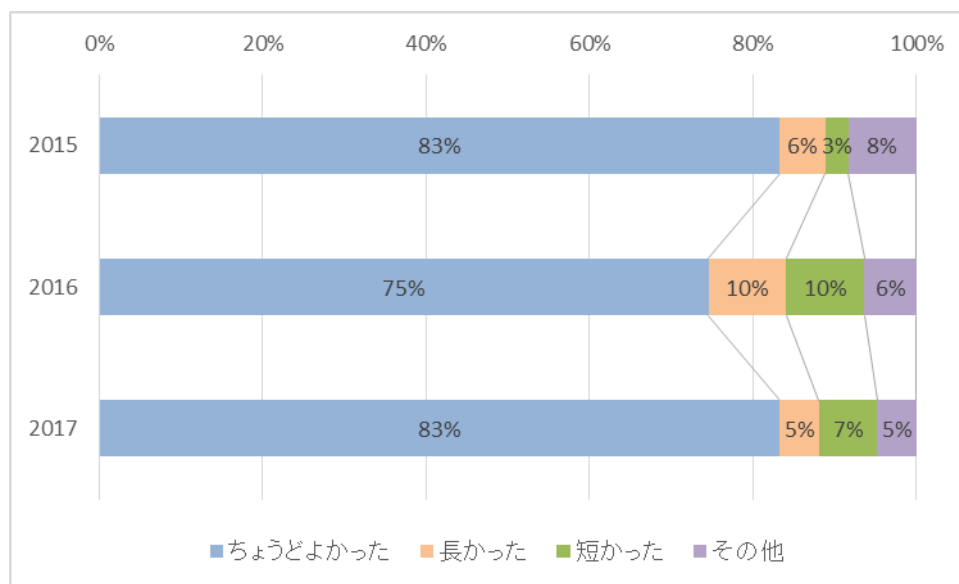
・前年度と比べると、「案内状」が11ポイント下がっており、逆に「知人からのお誘い」が10ポイント上昇していた。



(N = 43)

(5) 発表時間の長さ

・発表時間の長さは、「ちょうどよかった」が83%であった。



(N = 42)

(6) 参考になった発表

・参考になった発表としては、「インフラPFI/PPP 事業の体系的効果計測手法の開発に向けて～事業の価値を高めるVFM 評価とマネジメントの提案～」、「建設マネジメント力の実態調査結果の分析とこれを踏まえたその後の取り組みについて」が上位2位を占めた。

「インフラPFI/PPP 事業の体系的効果計測手法の開発に向けて～事業の価値を高めるVFM 評価とマネジメントの提案～」：25件

「環境修復事業を介したマネジメント手法・環境教育・グローバリゼーションに関する調査研究」：14件

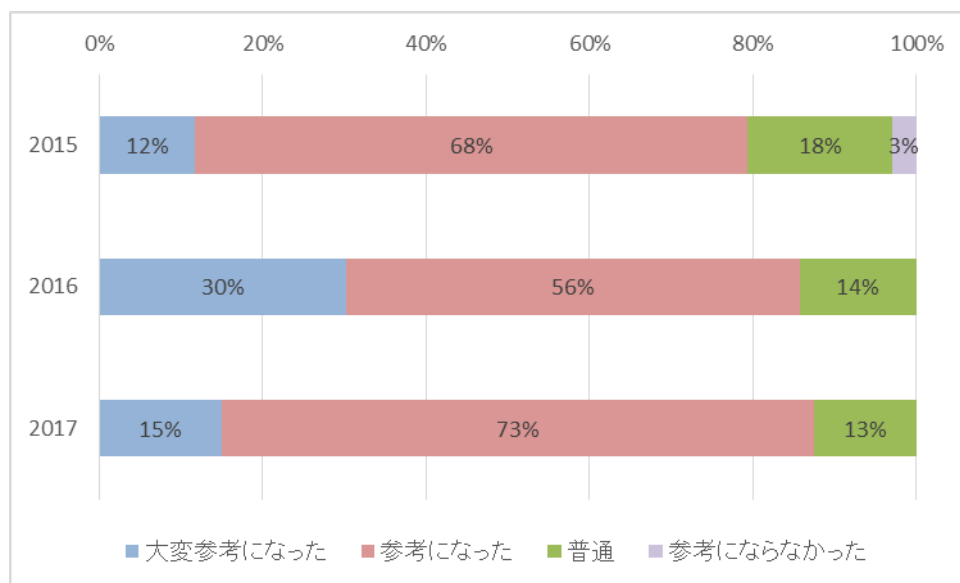
「工事進行基準に関する先行研究調査に関する一考察」：9件

「公共デザインへの競争性導入に関する実施ガイドライン（仮称）」：15件

「建設マネジメント力の実態調査結果の分析とこれを踏まえたその後の取り組みについて」：21件

(7) 参加した目的の達成度

・参加した目的を達成したかどうかについては、「大変参考になった」、「参考になった」が合計で8割を超えていた。



(N = 40)